



編集長便り

公立高校入試直前対策

(英語・数学)

2018年度の公立高校入試では、全教科において「思考力・判断力・表現力」を問う問題が増加しました。今回は、英語・数学のポイントをお伝えします。

英語 英作文で必要になるのは伝える力

昨年度と同様に、大学入試改革の影響を受け、公立高校入試でも英語4技能へ対応する動きが見られました。これまでの「読む」が中心の試験から、実施が難しいスピーキングを除く、「読む」「聞く」「書く」の3技能をバランスよく問う入試へと変化しています。

その中でも注目したいのは英作文の出題内容の変化です。日本語を単純に英語に訳すような問題は少なくなり、与えられたテーマについて賛成か反対かを決め、その理由を述べるような意見作文が増えていきます。そのテーマは現代社会を反映したものが多く、正解はありません。ですから、いかに説得力のある意見を組み立て、それを相手に伝わるように表現できるかが求められるのです。

<問題例>

2018年度 埼玉県 学校選択問題 大問4

4 次のAI（人工知能）についての英文を読んで、あなたの考えを、〔条件〕と〔記入上の注意〕に従って40語以上50語程度の英語で書きなさい。

Today AI is widely used for a lot of different purposes, such as computers and machines. Some people say that AI should be used more. What do you think about this idea?

〔条件〕 賛成か反対か自分の立場を明らかにして、その理由が伝わるように書きなさい。

こうした英作文では、英文を書く以前に自分の意見をまとめ、述べる力が必要となります。普段から社会の動きに関心を持ち、それが自分にどう関わるか深く考える習慣をつけるとよいでしょう。

また英作文と同様に、長文読解問題の題材も「免許返納」

「ロボット産業の将来」など現代社会の課題を考えさせるものが増えていきます。たとえば「AI」は、2018年度の公立高校入試において、東京や埼玉をはじめ5県で英作文・読解文に採用されました。また「インバウンド」も、各自治体が生徒に興味を持たせたい内容であるためか、出題が増えていきます。これらは今後も多くの県で出題される可能性があり、注目したいテーマです。

数学 日常生活がテーマとなり問題が長文化

数学は、日常生活を題材にした問題が増えたことに伴い、「方程式」「一次関数」「確率」「資料の整理」で問題文が長文化しているのが特徴です。中には、会話形式で課題を進める問題などもありました。

たとえば大分県の入試では、前提となる条件や状況説明が文章とグラフで示され、大問1つで1300文字を超えるような問題が出されました。これは、1分間に読む速さを500字とすると約3分かかる量です。しかも問われている内容を理解しなければならないため、問題文を読むだけで5分かかる、という場合もあるでしょう。

日常生活を題材にすると、どうしても前提となる条件設定や状況の説明が多くなります。こうした長文の問題に対しては、単に問題を解くだけでなく、問題文を早く読んで内容を理解し、条件を整理して解く力が必要となります。

また一次関数にしても、電気や携帯電話などの料金形態が題材になった場合、シンプルな一次関数の問題に比べて係数が大きくなるため、それだけで戸惑う生徒が出てくるでしょう。

大学入試改革や新学習指導要領の中では、社会の問題を数理的に捉えること＝数学を日常生活に活かすことが目標とされています。今後も日常生活に即したテーマは増えると思われるので、最新の問題にチャレンジして経験を積むことをおすすめします。
(教材編集長 上野伸二)

編集長の

ここですよ
ポイント

- 英語：英作文は伝える力が求められる意見作文が中心に
テーマは「AI」「インバウンド」など現代社会の課題を反映したものが増加
- 数学：日常生活が題材の問題が増え、「方程式」「一次関数」「確率」「資料の整理」の問題文が長文化